

博物館登録50周年記念特別展

新発見の写楽！

葛屋重三郎と

珠玉の浮世絵

国内現存唯一！

— 写楽・国芳・国貞・広重 —

【開館時間】 10時～17時（入館は16時30分まで）

【休館日】 毎週月曜日（但し祝日の場合は翌平日）

（9月15日、10月13日・祝は開館、翌9月16日、10月14日又は休館）

【入館料】 一般500円・400円・学生300円（中学生以下無料）

※「」内は20名様以上の団体料金 ※セット券（5枚2,000円）あり

左：写楽画《三代目瀬川菊之丞の都九条の白拍子久かた》

右：写楽画《二代目中村仲蔵の荒巻耳四郎金虎》 ※いずれも寛政6年（1794） 館蔵

2025

9/6 SAT —
11/9 SUN

公益財団法人 石水博物館

〒514-0821 三重県津市垂水3032番地18

【TEL】 059-227-5677 【FAX】 059-213-5789



HP



X (Twitter)



Instagram

主催：石水博物館 協賛：株式会社百五銀行／三重トヨペット株式会社 後援：NHK津放送局

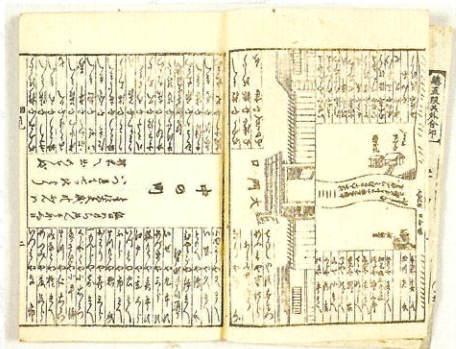
葛屋重三郎と

珠玉の浮世絵

— 写楽・国芳・国貞・広重 —

石水博物館のおもな所蔵資料は、江戸時代初期から伊勢国屈指の豪商として知られた津の川喜田久太夫家の旧蔵品です。江戸の大伝馬町二丁目に大店を構え、約300年もの間木綿問屋を営んでいた川喜田家の歴代当主は、津に住みながら江戸の文化をリアルタイムに享受できた特殊な環境にありました。

本展では、川喜田家の江戸店からほど近い場所に店を構えていた書肆「葛屋重三郎」にスポットをあて、館蔵品から、彼が手掛けた書物や写楽の浮世絵2点を初公開します。また当時の出版物や歌川派の浮世絵を中心に、江戸の人々の文化や娯楽を、伊勢商人旧蔵資料から紹介します。



1. 葛屋重三郎版『新吉原細見』
天明2年(1782)刊
 2. 広重画《東都大伝馬街繁栄之図》
天保14~弘化4年
(1843~1847)
 3. 国芳画《山海愛度図会 ヲ、いたい》
嘉永5年(1852)
 4. 三代豊国(初代国貞)画《両国涼船遊ノ図》
弘化4~嘉永5年(1847-1852)
- ※すべて館蔵

『石水博物館名品図録—浮世絵編—』刊行！

写楽をはじめ、国芳、初代国貞(三代豊国)、広重など江戸時代後期から、芳年、国周、暁斎、巴水ら昭和時代までの浮世絵の名品95点を掲載。(A4判、96頁、税込2,000円)



記念講演会 〈葛屋重三郎と浮世絵—石水博物館蔵の写楽作品を中心に—〉

講師：浅野秀剛先生(大和文華館館長・国際浮世絵学会会長)
日時：令和7年10月25日(土) 14:00~15:40(13:30開場)
会場：三重県立美術館 講堂(津市大谷町11)

申込方法：石水博物館HPお問合せフォーム、またはお電話にて
定員：申込先着100名様(聴講無料)

ギャラリートーク

担当学芸員が展覧会をご案内します。

日時：9月15日(月・祝)、9月20日(土)、
10月10日(金)、10月19日(日)
各日14時から30分程度

※お申込みは不要。当日14:00までに石水博物館受付前へお越しください。

※参加費は無料ですが、当日の入館料が必要です。

同時開催 (第2展示室)

所蔵品展《川喜田半泥子の作品と季節の館蔵品》

次回展覧会

特別展《NIGO®と半泥子》

会期：11月15日(土)~2026年1月12日(月・祝)

展示替休館

11月10日(月)~14日(金)

交通アクセス

- JR・近鉄津駅東口より三重交通バス(久居駅方面行)にて約15分、「青谷口」下車徒歩約8分
- JR阿漕駅より徒歩約12分・近鉄南が丘駅より徒歩約25分
- お車をご利用の方
【津市街から】国道23号線「大倉」交差点を県道776号線(久居方面)へ。JRの踏切を越え、約200m 先岩田池手前の細い道(角に看板あり)を左折、約300m 先左側。(駐車場 15 台)

公益財団法人 石水博物館

〒514-0821 三重県津市垂水3032番地18
【TEL】 059-227-5677 【FAX】 059-213-5789
<https://sekisui-museum.or.jp/>

